

新技術・情報名	農作業受託者の組織化手順		
実施場所	三重県農業技術センター 営農部	分類	※ ②

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

中小都市通勤圏にある中山間水田地帯(水田率87.8%, 1戸平均耕地47.2a)は、兼業化・縮単作化がすすむ一方、圃場整備・大型機械導入が行なわれている。また、整備統合青果市場に近く、生鮮野菜供給基地としての可能性も大きい。

この地域(白山市)の大型機械稲作、集団麦作、露地野菜の導入定着を図る上で機械作業の受委託仲介システムが必要となった。組織化の方向として、農協直営の大型機械利用事業を飛躍させる方向をとり、手順として、①広域の機械利用調整機能(農協)の創設、②受託者の組織化、③農協直営大型機械利用事業(圃場作業)の受委託組織への移譲、とする。

2) 技術・情報の通用効果

- (1) 個別相対受託者の組織化により、地域稲麦作の生産主体(担い手)が確定する。
- (2) 受託者の交流(情報交換・技術交流・共同作業等)が図られる。
- (3) 集団麦作・露地野菜導入等農家間連携による地域農業振興の支援組織になり得る。

3) 適用範囲

特に、水田基盤整備の完了した地域で、農作業受託者未組織の場合。

4) 普及指導上の留意点

- (1) 受委託組織化とその運営管理は農協営農指導活動の一環としてすすめることかのぞましい。
- (2) 受託組織(受託者)と集落・区等の地域集団(土地利用調整主体)との連携を図ることで、組織の必要性・受託量の拡大につなげる。
- (3) 受託能力、特に生産技術・作業技術の向上対策に配慮すること。

2. 具体的データ

表-1. 組織化の手順・方法(白山市農協の場合)

段階	内容
1.	相対受託農家の受託実績・経営条件調査(受託可能量, 所得)
2.	農協大型機械利用事業の実績調査
3.	委託量調査(就農・作業委託・稲作作業の実態, 意向)
4.	農協営農指導課に広域機械利用調整機能の創設
5.	機械利用調整の機構・運営要領の作成
6.	受託者の選定・登録、受託作業種類の決定、機械の確保、作業料金の設定(受託者は旧村毎に2~3名、計13名を登録)
7.	農協農業機械銀行の設立(総会とPR)

(注) 白山市農協農業機械銀行は、昭和56年設立。

表-2. 兼業農家による野菜作の作業分担(ブロッコリー作のモデル)

作業名	時期	方法	分担
育苗	7.下 ~ 9.上	共同	生産者(共同集団育苗)
排水溝掘り	7月	受委託	農協農業機械銀行
土改材散布	"	"	"
堆肥散布	7 ~ 8月	"	" 又は畜産農家
基肥施用	8.中 ~ 9.上	個別	生産者
耕起・畦立	"	受委託	農協農業機械銀行
定植	"	個別	生産者
肥培管理	8.中 ~ 1.下	"	"
収穫・出荷	10.中 ~ 2.下	"	"
集荷・販売	"	委託	農協
残葉整理	10.下 ~ 3.上	交換	畜産農家(堆肥と交換)

3. その他特記事項

- 「地域農業複合化推進試験研究」昭54~57年度、総合助成。
- 「高位地域農業複合化推進試験研究」昭57~59年度、総合助成。